

ラオス・カンペン小学校落成式・開校式の挙行

祝

5月24日発行の会報「第13号」でお知らせしましたように、ラオス中北部のシエンクアン県ベック郡ユアン村に、西東京市の太田夫妻の寄付金により建設してきたカンペン小学校が完成しました。そのカンペン小学校の落成式・開校式が9月23日に盛大に

開かれ、太田さん家族も参加しました。残念なことです、太田勝己さんは学校の完成を見ることなく、5月にご逝去されました。ご主人の介護もあって、参加をあきらめていた奥様の照子夫人も参加できることとなり、ご主人の遺影を持参して参加し、太田家のお嬢さん夫婦とその息子さんも同行することになりました。当NPO法人からは専務理事の石塚が日本から随行しました。

ラオスの首都ビエンチャンへは日本からの直行便がないため、9月21日に成田を発ち、まずベトナムのハノイへ飛び、空港近くのホテルに一泊し、翌22日、日曜日の朝早く、ビエンチャン経由でシエンクアン空港に飛びました。シエンクアン県はベトナム戦争当時最も激しく爆弾を落とされた地域で、そのために、中心部の県庁所在地は不発弾が多く残っているため再建をあきらめ、30km離れたポンサワーン町に新しく行政の中心地をつくりました。カンペン小学校はそのポンサワーンから約20分間舗装道路と土の道を車を走らせると現れます。この日は前入



りしていた宍戸理事長と石塚が翌日の開校式の準備状況を確認するため小学校に向かいましたが、学校近くの道路は4WDの車の中で前後左右上下に振り回される大変な悪路でした。学校に着くと、校庭に大きなテントがいくつか張られ、準備が着々と進んでいて、安心しました。新しい校舎の裏に回るとジュ・ヤン校長がトイレの掃除をしていました。宍戸理事長もすぐ加わって、トイレをきれいにしました。

翌23日は太田さん家族も途中の悪路に驚きながら、カンペン小学校に行き、立派に出来上がった校舎を初めて見る事ができました。3つの明るく広い教室と教員室、さらに幼稚園の教室を備えた立派な校舎や新しいトイレ、そのトイレへ水を流すための井戸が出来上がり、これからは、1・2年生だけでなく、入学前の子供たちが同じ校舎の幼稚園と一緒に通え、上級生も遠くの学校に通わなくてよくなりました。それを聞いて、太田さん家族もとても喜んでくださいました。

中学生のお兄さん、お姉さんグループによるモン族に伝わる素敵な民俗舞踊による歓迎で開校式が始まり、その後、太田夫人のご挨拶、国や県のスポーツ教育局や校長、生徒代表のお礼の言葉や学校の鍵の贈呈と続き、ラオス語と日本語が行き交う式典となりました。子供たちはテントの中心に座り、両脇に多くの来賓や日本からのゲストが並びました。式典の後には昼食会が開かれ、さらに、遠来のお客さんの幸運を祈るバーシーの儀式が地元の祈祷師により行われ、参加者の皆さんがかかわるがわる日本から来た我々の腕に、祈りながら、何本も白い糸を巻いてくれました。昼食後はラオスでは開かれないミニ運動会を開催し、子供たちの二人三脚や袋跳び競争が行われ、子どもだけでなく、応援する大人も大歓声と笑いで盛り上がりました。帰りには子供たち全員が校門まで列を作って並び、太田さん家族を見送り、太田さん家族も157人の一人一人に日本からのお土産を手渡し、名残惜しい気持ちで別れ、開校式は無事、盛大に終わりました。(報告) 専務理事 石塚 勝巳



“ユース初のベトナム北部スタディーツアー”

活動報告：CSR²ユース 野村 祐貴

初めまして、CSR²ユースでリーダーとして今年度から活動させていただいております大学1年の野村と申します。この度宍戸理事長より会報14号への寄稿についての提案を受け、是非とも我々の活動について皆様にお伝えしたく拙文を寄せさせていただきました。

今回我々は夏季休暇の合間を縫ってスタディーツアーへと繰り出しました。我々は日本人大学生11名、ベトナム人大学生など5名で活動しており、今回の北部へのスタディーツアーには、日本人が5名、ベトナム人5名が参加しました。日本人大学生全員が一度もベトナムを訪れたことがなかったのですが、何度か現地の状況の探究や聴取、計画をしていくにつれて不安は減っていきました。

初日は主に移動がメインでしたが、ハノイ空港に降り立った時に感じたことは「日本との違いはさほどないのだな。」ということでした。身構えていた割には空気や匂いに対する大きな違いを感じる



村への山上から眺望したランビン村



ホアロー刑務所での記念スタンプ

ことができなかつたのです。二日目はベトナムのハノイ大学の学生たちと交流しました。様々な場所を案内していただきましたが、私にとって一番衝撃を感じた場所はホアロー刑務所です。実際に見学をし、劣悪な環境の独房や足を鎖で繋がれ続けた受刑者の蝸人形などから受けるリアリティを一番強く感じました。このような経験をする中でベトナム人大学生との仲はさらに深まっていきました。次の日からはいよいよランビンへと向かうこととなります。

三日目にランビン入りし、障害を持った方でも仕事ができるよう整備されたお土産屋さんを訪れ、ランビンの人々の温かさを感じました。四日目は村の奥地の小学校を訪れ、炎天下ボランティア活動として壁面にペンキ塗りを行いました。特筆すべきは、ペンキ塗りを現地の子供達や先生方と一緒にやったという点です。我々が一方的に行う活動ではなく、共に行い関係性をより広げることができました。また、夜には民族舞踊を見たり実際に一緒に踊ることで、より親睦を深めることができました。

五日目はその山奥の小学校で子供たちに日本の文化を伝えるために「けん玉」、「折り紙」、「風船飛ばし」などの遊びを一緒にしました。加えて、この三日間で食べたものにとっても衝撃を受けました。紫色のおこわのようなものがとても美味しかったです。六日目はボートクルーズに出かけました。滝壺に生息するドクターフィッシュと一緒に泳いだことはとても刺激的であるとともに非日常をより際立たせてくれた最高の経験でした。また、小さな船から見る絶景はハノイの市街地とは一味違う、ベトナムでありながらもベトナムではない



校舎壁面に描いた子どもたちを楽しませる絵

ようなそんな錯覚が私の中に生まれました。

今回のスタディーツアーを通じてベトナムという異国の地で互いの文化を伝え合い、それを体験してみることで自分たちの日常生活が当たり前ではないことを肌で感じることができました。我々は今、新たなスタディーツアーを創設し、様々な人が私たちが得た通じ合う感動を味わうことができるよう活動しております。CSR²ユースはこれからも大学生を主体として自らの目で課題を発見し問題解決に努める団体として励んでまいります。



世川武尊さん支援の小学校が、まもなく完成

K-1キックボクシングの世川武尊（タケル）君の支援で、昨年10月から建設が進んでいるベトナム北部Tuyen Quang省、Lam Binh郡、Minh Quang村のBan Don小学校。2階建て・6教室の建設は、大工事です。

今年の8月と9月には、長期間の雨天のため、建設が数ヶ月遅れておりました。特に、今年9月初旬の50年に一度という大きな台風「ヤギ」は、ベトナム北部を直撃し、Lam Binh郡の南、Chiem Hoa郡やPhu Tho省で大きな被害を出しました。洪水があちこちで発生し、1週間から10日間も、洪水被害に苦しむ人々もありました。「Ban Don小学校の建設現場は大丈夫だったのでしょうか。」

9月下旬に、理事長・宍戸が、ベトナム北部を訪問した際に立ち寄って、Ban Don小学校の無事を確認することができました。校舎の建設の進捗は、多少遅れてはおりますが、年内には、ほぼ完成する予定です。



11月1日現在の建設状況
(写真提供は、建設会社社長、Mai Tuyenさん)



子どもたちへのプレゼントを運ぶ
武尊君と龍矢選手（昨年7月の訪問時）

同じ9月末、9月27日、タイのルンビニスタジアムで、武尊君の試合がありました。ミャンマーの19歳の新進気鋭の選手と戦い、ダウンを奪われる場面もありましたが、無事にKOで勝利を収めることができました。

この試合のあと、武尊君は、「対戦相手タン・ジン選手が試合前に勝った賞金で母国ミャンマーの洪水被害の復興をしたいという話を聞いていたので僕のファイトマネーの一部を寄付させて頂きました。」と報告しています。そんな武尊君は、「戦うことで誰かを救える。それが命を懸けて戦った意味になる。」という書き出しでインスタを更新しています。やっぱり武尊君、ステキですね。

いよいよ、武尊君支援のBan Don小学校の落成式・開校式の予定を立てる時期となってきました。武尊君を案内して、落成式・開校式ができることが、今から楽しみです。

奨学金支援生徒を二人増やして、10人に

昨年からスタートしたLam Binh郡の奨学金制度ですが、昨年度（現地は、9月から新年度）は、8人の生徒を支援することができました。その8人のうち3人が中学校を卒業したため、新たに3人の奨学金授与対象の生徒を選ぶ必要がありました。



玉入れで籠をもつ谷川さん

昨年度、皆様方から、多くの奨学金支援を寄せていただくことができたため、今年度は、さらに2人増やして、新たに5人を加えて、全部で10人に奨学金を授与することができました。

6月の訪問では、この奨学金支援活動の発起人である蔦木淳二さんをはじめとして、谷川亮さんやハノイにも会社を持つ建設会社社長の湯野郁雄さん、ハノイの支援者ミン・ハイ・グエンさんなどで、奨学金支援対象生徒との面談をすることができました。さらに、Thuong Lam小学校では、3・4年生の子どもたちとスポーツイベントも楽しむことができました。また、この機会に、CSRスクエア・ユースで壁面画を描くThuong Lam小学校分校のCoc Phat小学校も活動準備のための下見として訪問させていただきました。



後列右端は、教育・訓練局長Vinh氏
一人の男子生徒は、急病のため欠席でした

グリーン活動で壁面画用のペンキを支援

日本旅行東北の郡山支店の相沢寛人さんを中心として、実施されてきている毎月最後の日曜日の朝9:00～10:00、郡山市の公園や道路などのゴミを拾い集めるチャリティ・クリーン活動。この活動には、子供以外の参加者全員が、1,000円を払い参加します。

その半分は、郡山市の子ども政策課に寄附され、郡山の子どものための支援に活用されます。残り半分は、CSRスクエアに寄附され、東南アジアの貧しい学習環境の改善などに役立てられています。2024年11月24日の活動で、37回目を数えましたので、3年以上、続けてきていることとなります。これまでは、ベトナムの山奥の貧しい幼稚園や小中学校の大型テレビの支援などに活用されてきました。



前列は、手伝いに集まってくれた現地の高校生達。後列は、日本の大学生達とハノイ大学生。

2 ページ目で報告されている今年8月のCSRスクエア・ユースの活動で実施された、ベトナム北部Tuyen Quang省、Lam Binh郡のThuong Lam村、Thuong Lam小学校、Coc Phat分校の壁面画の制作活動では、10色を超えるアクリルペンキを大量に準備する必要がありました。また、刷毛やパレットなども、30人分ほど必要となりました。今回の訪問と活動には、このチャリティ・クリーン活動のリーダーでもある相沢さんが、参加してくださったこともあり、その活動に必要なペンキその他の資材は、すべて、これまでに蓄えられたこの活動からの寄附金を充てさせていただきました。



2022年1月のクリーン活動には、品川郡山市長様も応援に駆けつけてくださいました。

こうした様々な活動からの寄附金があることが、活動の原動力となっています。また、この訪問では、2つの教室の壊れた蛍光灯8基を器具ごと交換し、各教室に取り付けられながら壊れて動か

なかった4台の扇風機も新しいものを寄附し、交換しました。この学習環境の改善のための支援金は、会員の皆様からの会費などを充てさせていただきました。感謝し報告とさせていただきます。

この学習環境の改善のための支援金は、会員の皆様からの会費などを充てさせていただきました。感謝し報告とさせていただきます。

「命の水」の確保に、大型揚水ポンプ2台の追加支援

前会報13号4ページ目で報告させていただいたT. T. Hue省の大型揚水ポンプの支援についての動画を、YoutubeにUploadさせていただいておりましたが、それらの情報をご覧いただき、東京都の二つの会社の社長さんが、それぞれ1台、大型揚水ポンプを寄附してくださいました。

今回の揚水ポンプの設置場所は、川からの田んぼまでの高さ、前回の2倍以上もあるため、ハイパワーの揚水ポンプが必要でした。それらを購入し設置する現地でのサポートは、これまで同様、Hue農業農林大学の学長であったLe Van An教授（現・地域開発研究所所長）が力を貸してくださいました。



これまでは、乾季には、田んぼの稲が枯れたり、家畜の飼料となる牧草畑に灌水できなかつたりしていましたが、「今年は、2期作の2回とも、水田からの米の収穫は、これまでの数倍の収穫量となりました。」と、村人の喜びの姿と共に、写真などで報告を下さっています。嬉しい報告です。



ドネーションツアーの案内で、フォローアップ

東京渋谷に本部のある「日本寄附財団」様からは、一昨年から、Quang Nam省Tay Giang郡の10の幼稚園や小中学校の水の浄化装置設置の支援、さらに、昨年は、Da Nang市Hoa Vang地区を中心とした11の幼稚園への大型遊具の設置、そして、現在は、Tuyen Quang省Lam Binh郡の2つの幼稚園の園舎の修理工事の支援と、続けて大きなご支援をいただいております。

事前の提案書の作成と提案もさることながら、完成したあとに、それらの支援のための寄附金を寄せてくださった方々を案内しての寄付者訪問ツアー「ドネーションツアー」も、大切な仕事となります。それは、そのツアーで再度訪問することにより、工事などが完了したあとのフォローアップにつながるからです。



Da Nang市Hoa Vang郡、Hoa Lien第2村
Huong Phuoc幼稚園訪問



Azur小学校での水浄化装置の確認

今年6月22日からのベトナム中部のドネーションツアーには、女性5人と男性1人の6人が参加してくださいました。

一人は、昨年完成したTay Giang郡の最も奥地のAzur小学校に水浄化装置を寄附してくださった「鈴木美由紀様」。さらに、もう一人は、Da Nang市Hoa Vang郡のHoa Lien第2村のHuong Phuoc幼稚園に、大型遊具2基を寄附してくださった「佐藤はる子様」でした。その他の方々は、このお二人の友人の方々です。

特に、鈴木美由紀様とは、「深いご縁」がありました。お生まれが、福島県二本松市、いわき市小名浜で小中学校を卒業。10月25日に鈴木様の母校の小名浜第1中学校での理事長の講演会があり、その講演会に、スリランカから帰ってすぐに足を運び、メッセージを伝えてくださいました。

日本の子どもたちの支援で、教育環境改善

日本国内での理事長の講演会は、まもなく通算600回を数えようとしております。「人の役に立つ人間になろう。」と呼びかける講演会に、子どもたちや先生方も賛同していただき、様々な活動により、支援金を寄せてくださる学校が増えてきています。

今年度になり、東京都町田市立南大谷小学校、福島県立福島南高等学校、東京都板橋区立志村第2中学校、和歌山大学教育学部附属小学校、東京都立富士高等学校附属中学校、福島県国見町立国見小学校と続けております。来年3月まで、これからも数校、寄附金をお預かりする予定もあります。こうした寄附金は、銀行振込みではなく、できるだけ理事長・宍戸がそれぞれの学校にお伺いして、子どもたちから直接預かるようにしています。それは、子どもたちの成就感や達成感を育てるためです。

さらに、それらの寄附金は、たとえ少額であっても、必ず現地の校長先生などと相談し、その学校に、本当に必要な物を支援するため、会員の皆様からの会費による支援などで増額し、井戸・大型テレビ・パソコン・プロジェクターなどとして現地へ届けています。これまで大型テレビなどの教育機器を支援してきた学校数は、20校を超えています。また、その学校を訪問し機器を届ける日時に、ZoomなどでOnlineで、現地と日本の学校を結び、東南アジアの山奥の学校に、その支援が届いたことを報告するように努力しています。長期間の夏休みなどの場合には、現地で動画を撮影して持ち帰り、それぞれの学校などに届けるようにしています。こうした両方向の活動により、東南アジアの貧しい学校の教育環境の改善と日本の子どもたちの役に立ちたいと願っています。



国見町立国見小学校から寄附金受領（11月13日）



ラオスの小学校に届けられた大型テレビ

2024年4月～2024年9月の正会員、寄付者名（敬称略）

◆正会員◆

北海道	柿崎 幸至	東京都	水谷 友裕
同	中西 重敏	同	宮田 顕
同	山本 禎	同	森安 勇斗
山形県	安孫子ゆかり	同	柳 裕之
茨城県	理崎 比治	同	柳田 英子
栃木県	片瀬 英彰	同	吉野 佑
埼玉県	太田 光紀	同	吉村 康佑
同	香田 寛美	同	吉田 泰子
同	近藤 敏	同	(匿名希望1名)
千葉県	永富 雪子	神奈川県	猪俣 貴子
同	石塚 勝巳	同	大石 孝裕
同	小林 弘英	同	冠木友紀子
同	齋藤 輝峰	同	佐藤 純子
同	染谷 登	同	佐藤 春希
同	土屋 君子	同	佐藤 洋平
同	鶴巻 美一	同	鈴木 健吾
同	奈良部美紗江	同	園部 和宏
同	中込志津子	同	田中 正幸
同	平沼 京子	同	西垣 文男
同	藤原 勝子	同	松下 伸廣
同	水沼 武二	同	松葉 亜紀
同	山田 弘	同	吉永 優
東京都	吉田美枝子	同	吉野 佑
同	吾妻 隆一	富山県	河内 和宏
同	大岩 龍矢	長野県	柳平 和代
同	大西真由美	三重県	久我 公亮
同	菅原 典彦	同	村上 晴紀
同	木島 良三	大阪府	山口 拓也
同	小林 暉	兵庫県	石原佳代子
同	小林みゆき	同	桧垣 拓司
同	佐藤はる子	同	柴野 建夫
同	清水 誠	同	谷川 亮
同	鈴木美由紀	島根県	妹尾 由香
同	高橋 雄志	福岡県	松本 牧子
同	高見澤浩介	VN・ハノイ	チャン・フン・チュン
同	竹内 楓真	福島県	相沢 寛人
同	田中 温	同	会津 電力
同	田中 克己	同	安斎 純子
同	田中 里美	同	伊東 廣樹
同	田中てるみ	同	伊藤 稔
同	ダニエル・フラス	同	小平 一夫
同	蔦木 淳二	同	柿沼 孝明
同	徳永佐智代	同	柏 正二
同	富塚由美子	同	片野 宗和
同	西川 敬子	同	神岡 祥恵
同	長谷川由貴	同	菅野 クニ
同	真鍋 秀則	同	菅野 元一

福島県	齋藤 典子
同	佐藤 貴一
同	佐藤美保子
同	島田 荘
同	鈴木キミ子
同	鈴木 教弘
同	高信由美子
同	田崎 真
同	富山 幸子
同	根本 敏明
同	林 克重
同	福田 文子
同	室井 君男
同	室井 公子
同	山本 和宏
同	吉川 哲也
同	渡辺とし子
同	(匿名希望1名)
(不明)	鈴木いくえ

賛助会員
東京都 高橋 愛理

◆法人会員◆

大阪府 松原工務店
福島県 春光園
同 ハヤシ製作所

◆寄 付 者◆

栃木県	柳 文男
埼玉県	長岡 成郎
同	西山 俊子
千葉県	太田 利彦
同	寺田 悦子
同	水沼 武二
同	光安 輝雄
同	山本 恵子
東京都	太田 勝己
同	佐藤はる子
同	塩貝 香織
板橋区	立志村第2中学校
同	鈴木美由紀
同	蔦木 淳二
同	南雲 利明
同	真鍋 秀則
町田市	立南大谷小学校

※寄付者の続き

東京都	柳田 邦男
同	柳田 英子
同	山本 晴美
神奈川県	大石 孝裕
同	冠木友紀子
同	川原 淳
同	金子 祐仁
同	田中 正幸
同	平井 隆一
同	松下 伸廣
三重県	村上 晴紀
大阪府	芦田 衛
和歌山県	
	和歌山大学附属小学校
兵庫県	谷川 亮
同	桧垣 拓司
島根県	出雲ロータリークラブ
福島県	相沢 寛人
同	石澤 良太
同	大須賀祐香
同	岡崎 忠昭
同	柏 正二
同	片野 宗和
同	神岡 祥恵
同	菅野 元一
同	菅野八百里
同	郡山チャリティークリニック活動
同	齋藤 典子
同	齋藤千賀子
同	常 泉 寺
同	鈴木キミ子
同	鈴木 教弘
同	高信 栄一
同	林 克重
同	福島南高等学校
同	八巻 崇壮
同	渡辺とし子
同	(匿名希望4名)
VN・ハノイ	なかよし幼稚園
同	シ・ハイ・ゲン



認定NPO法人 シーエスアールスクエア（CSR²）（輝く学校広場）

Challenge for School Revival & Corporate Social Responsibility

〒960-8136 福島県福島市八島町6-29 TEL 090-2604-4226 FAX 024-533-2612

(ホームページ) <https://csr2.or.jp/>

(facebook) <https://www.facebook.com/Kagayakugakkou>

E-mail: shishido.csr2@gmail.com